

シヨクカイ相場情報2022.08

国内野菜

全般

【根菜類】

○大根

6・7月の降雨が多く、北海道産・青森県産の播種も上手くできていない状況です。引き合いは強くない時期で流通量が少なく、前年より高値で推移しています。

○人参

北海道産の作付面積減少により流通量が少なかったものの、8月中旬には別産地が出揃い、相場は下がる見込みです。

○玉ねぎ

北海道産の生育が順調です。極早生種で若干生育の遅れはあるものの大中心と大玉寄りで、平年並みの流通量となる見込みです。端境期は生じますが、長らく続いた高値は落ち着くと思われま

【葉茎菜類】

○白菜

長野県産に高温と干ばつの影響がみられますが、8月後半には回復が見込まれます。流通量は平年並みで、価格も平年並み、前年と比較して安価です。

○キャベツ

若干高温や干ばつの影響はあるものの、概ね順調に生育しています。相場は現状の安値基調から大きな変動はない見込みです。

○ほうれん草

生育は各産地共概ね順調です。しかし今年は気温が高く、8月中旬以降に生産量が減少し、価格が上がる可能性があります。

【果菜類】

○胡瓜

東北産が最盛期を迎えています。8月の中旬以降、生産量が減少し、相場が上がる見込みです。

○茄子

7月中旬は曇雨天により生産量が少なかったものの、間もなく回復する見込みです。お盆需要で相場は上がるものの、流通量は平年並みとなる見込みです。

輸入野菜

玉ねぎ

日本や東南アジア向けの生鮮品輸出相場の高騰により、日本向けの冷凍品の価格も釣り上げられ、相場は上昇しています。更に、貯蔵在庫不足により、価格はもうひと段階の高騰が見込まれます。

アスパラ

春物の供給不足を受けて、現在シーズンを迎えた夏物の引き合いが非常に強まっている様子です。価格は昨年と比較して大幅に上昇しています。

オクラ

主産地である山東省荷澤市で猛烈な大雨が降り続け、シーズンに突入し始めたオクラ畑が広範囲で冠水した、と伝えられました。被害程度を正確に把握しきれていないものの、一部は深刻なダメージを与えられた状況です。人出不足も相まり、原料価格は今後下がる事はない見込みです。今後の動きに注意が必要です。

揚げ茄子

生育は順調で、品質も良好です。新物は7月～9月に加工する予定です。世界最大のパーム油生産国であるインドネシアが輸出を再開・拡大する中、揚げ茄子に使用するパーム油の国際価格は、高騰から一転して下落してきました。産油国から輸出が増えるとの思惑で需給の緩みが意識されていることから、揚げ茄子の価格は例年より大幅な上昇との予想から一転、例年並みになると予測されています。

かぼちゃ

順調な生育で推移していたものの、近日で雨の日が多く、地下茎の原料が腐敗しやすい為、生産量を伸ばせていない様子です。その結果、原料価格は高騰しています。

畜肉

鶏肉

国産品は、夏本番を迎え、ムネ肉・ササミ中心の荷動きです。加工筋では輸入品の価格高騰もあり、安定供給が計算できる国産に切り替える動きもあります。モモ肉は、年末年始向けに凍結作業が進んでいるものの、生鮮での販売を優先している状況です。需要は強くありませんが相場はもちあいとなる見込みです。

輸入品は、需給バランスでは出回りが輸入量を上回ると見られ、国内在庫は減少見込みです。今後の展開次第ではもう一段価格が高騰する可能性もあります。新型コロナウイルスの感染が再拡大する中、外食向けなどの業務筋では再び需要低迷を懸念する声も聞かれます。調達面では、現地のコスト高を受けて輸入量を絞っていることから高値が続いています。

国産生鮮は、モモ肉はもちあいで推移すると予測されます。例年であればジリ下げ展開となるものの、コスト高・輸入品高騰を背景に強気で推移しています。

豚肉

輸入冷凍品は、為替の影響や中国の買い付け強化等により、買い時が難しい状況です。7月は需要好転の材料がなく、梅雨は明けたものの、そこから一転、猛暑で購買力も低下気味です。中旬以降は夏休み入りで学校給食も停止となりました。一方で、今年はコロナ禍ではあるものの行動制限のない夏休みとなることが予想され、外食需要の回復が期待されますが、都内では第7波の新型コロナウイルスの感染者数がジワジワと増加傾向にあり、不透明感が強まっています。

牛肉

7月の3連休の末端消費が振るわず、中間流通及び末端は在庫を抱えている中で、盆休み需要に向けた引き合いも強くありません。市中在庫の動きは予想以上に鈍く、異例の状況となっています。新型コロナウイルスの感染急拡大に伴う旅行や帰省の自粛も懸念されることです。各社買付は絞っているようですが、盆休み需要の盛り上がりあるいは入船の大幅遅延等何らかのキッカケがない限り、在庫状況が一服するまでには時間がかかるとみられます。

魚介

鮭鱈

【鮭・鱈】

鮭原料は、供給量の不足を要因として、原料価格は高値で推移しています。また、製品の品薄状況が続いています。

鱈に関しては、原料が値上がり傾向であり、製品価格に反映されていますが、鮭鱈類の中では最安値です。

【チリ銀鮭・トラウト】

チリ銀鮭原料は、その他鮭類の品薄を要因として価格が高騰しています。製品価格も同様に高値で推移しています。

トラウト原料は、チリ銀鮭と比較して安値価格帯で推移しています。

サバ

ルウエー産・アイスランド産等の欧州サバは、今期、原料買付価格が高騰した事を要因として、更に製品価格が上がっている状況です。また、製品の品薄状況も続いています。

タラ カレイ 赤魚

助宗タラ・白身カレイ（アブラカレイ）は原料価格の値上がり・為替変動・輸入諸経費がコスト増となっている事から、製品価格の値上がりが継続している状況です。

赤魚に関しては、原料価格高騰と輸入コスト等上昇の影響を受け、製品価格は高値で推移しています。

※2022年7月末日現在の予測に基づいて作成しております。